

読書の仕方について考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。いよいよ読書の秋ですので、今日は読書の仕方についてお話をさせていただきます。
2. 勉強と読書はどのような関係があるのか。それについての私の考えは、読書をすると読解力が身に着くので、読書をしている方は学校の成績がよくなって、入学試験では自分の第1志望校に合格する確率がとても増えるということです。一方で、読書をあまりしていない方は、難しい問題を読んでも意味がよくわからないので、学校の成績をなかなか上げることができず、自分の第1志望校に合格する可能性がそれほど高くないことが多いようです。
3. 読書には本はもちろん、もしかしたら新聞も含まれるのではないかと私は思いますので、ぜひ皆様に新聞を読んでいただきたいと思います。新聞には地域や日本、世界、これからの世の中のこと、健康のことなどすべて書いてあります。ご家庭では一紙、できれば二紙ぐらい取っていただき、まずは大人の方がじっくり読んで、そのあとでお子さんに昨日の新聞をプレゼントしていただきたいと思います。

最近、大人の方でも新聞を読むのがおっくうになっている方がたくさんいらっしゃいます。しかし、大人が新聞を読まない限り、子どもはなかなか読みません。理由は簡単で、家に新聞が無ければ読むことはできないのです。ですから、子どものためにもご家庭で新聞を取っていただいて、お子さんに昨日の新聞をプレゼントしてあげてください。
4. 毎日毎日、1日30分以上新聞を読んでいるお子さんは、世の中のことが本当によくわかります。これからの課題もよくわかります。今話題になっているSDGsについても毎日毎日書いてありますので、2030年に何が課題になっているのかや、生きる意味・学ぶ意味などが少しずつわかってきます。ぜひお子さんの教育のためと思って、ご家庭で必ず一紙は取っていただく、できれば二紙ぐらい取っていただくと、見方がたくさんあることがわかってよい勉強ができます。繰り返しになって恐縮ですが、ぜひ新聞を取っていただけるようよろしくお願いいたします。
5. さらにここからは、読む力を伸ばすためにはどうしたらよいかというお話を二つさせていただきます。基本中の基本は、常に本と新聞を持ち歩くことです。読む力はすべての基礎になりますので、本と新聞はいつも持ち歩き、時間があったら気軽に読むというのが、読む力を伸ばす一番よい方法です。

6. 学習効果は、学習時間×学習方法×読解力だと思いますので、読む力もとてもとても大事です。その読む力を身に着けるために、本と新聞を持ち歩いてください。私のカバンの中にはいつも新聞が入っています。私の場合は、英語の勉強が足りないので英字新聞を入れてあり、**Japan Times**を毎日少しずつ読んでいます。日本語で内容がわかっている記事が英語で書かれていますので、最初はよくわからなかったのですが、慣れてくるとだんだんわかるようになります。日本語で内容がわかっている記事を英字新聞で読むことも、英語の力をつけるという意味でためになります。ぜひ、日本語でわかっている記事は英語で読む、そして、本と新聞を毎日毎日持ち歩いて読んでいただきたいと思います。

7. 本を読んだり新聞を読んだりするのに、スピードやまとまった時間が必要かどうかという話がありますが、私はそれほど必要ではないと考えます。それよりも、本や新聞をいつも持ち歩いて、ちょっと時間があるときや休み時間のときに気軽に1分、2分活用して読むことをお勧めします。1分、2分あれば1ページ、2ページは読めると思います。そして、そのあとで時間があるときにじっくり読んでいくことがよいと思います。

8. また、文庫本や新書本というものがあり、昔は、文庫本や新書本は難しくて手に負えませんでした。しかし、今の文庫本や新書本は昔と違って本当に読みやすいです。文字が大きく行間が空いていて、あまり難しい表現は使わないようにと本屋さんの方でも出版社さんの方でも気を遣っていただいて、やさしい言葉遣いを非常に多く用いていますので、本当に読みやすいです。昔は非常に難しかった文庫本でも、今出ている文庫本はとてもとてもわかりやすいものがたくさんあります。ですから、昔読んだ本をぜひ買い直していただいて、新しい文庫本や新書本で気軽に読んでいただければと思います。

このように、本や新聞をいつも持ち歩いて時間があるときに気軽に読むということが、読む力を伸ばす一つ目の方法です。

9. 二つ目は、本を読むときは線を引ながら読むとよいということです。私の手元に、私の弟が使っていた憲法の本があります。弟は弁護士をしていましたが、今は亡くなってしまいました。それを読んでいるのですが、線の引き方がとても上手いですね。大事なところには必ず赤鉛筆で線を引いてあったり、言葉の定義に線を引いてあったりして、最初のページから最後のページまで本当にきれいに使っていました。このような本の読み方をしていたのを見ると、難しい司法試験に受かるなあと思いました。私は落ちてしまいましたが、やはりきちんと勉強して、1ページ目から最後のページまで線を引ながら本を読むと、本当に自分の身に着きます。線を引いた箇所は大事なところですので、そこを繰り返し繰り返し読むとさらに身に着くのです。

本を読むときにはぜひ線を引ながら読むことを、皆様にもお勧めしたいと思います。